

特別寄稿・論文

埼玉県西部地域における買物行動の分析

—地域差と今後の居住継続意向について—

南 林 さえ子

はじめに

高齢社会を迎え、買物弱者である高齢者の買物行動を把握することは重要である。買物行動は高齢者の楽しみになり得ることを考えると、大規模小売店であれ、商店街であれ、買物面にとどまらず高齢者の生活をサポートできれば、高齢社会における重要な役割を担うことができる。筆者はこれまで駿河台大学と飯能信用金庫との協同事業として行なわれてきた、埼玉県西部地域各市（日高市、飯能市、狭山市、所沢市、入間市）の消費動向調査に関わってきた。調査ごとに報告書を公表し、世帯の商品別買物場所、買物回数、交通手段や要望を元に、居住地区別年齢別の消費者の買物行動をまとめてきた。また、すでに「高齢者の買物行動—埼玉県西部市域を事例として—」（2011）として飯能市内に関する考察を行ってきた。

本稿では、南林（2011）の対象とした調査以後の埼玉県西部地域4市の調査をもとに、地域差に焦点を当て、高齢者の買物行動を明らかにした。埼玉県西部地域各市は市内地区別に買物環境が異なり、条件が大きく異なる。地区内に日常の食料品スーパーがある場合は週に多数回買物を行い、徒歩での買物も可能であるが、そうでない場合は、買物回数は少なくなり、距離のある所へ、車での買物が必要になる。

また、高齢者の身体機能の側面からみた高齢者の買物行動の特性として、次の問題点が考えられるだろう。

- ・高齢になるにつれ、買物に行く頻度は減るのか
- ・身体面で、特に脚力の機能低下、視力、聴力の能力低下に対する配慮がなされれば、時間的に自由が多い高齢者にとっては、買物という行動はひとつの余暇活動として十分意味のあるものになるのではないか。

本稿では、各市の地区別の差を考慮して、高齢者の買物頻度、買物手段、買物に対する満足度、居住継続意向などについて分析を試みた。

1. 先行研究

(1) 機能面からのアプローチ

高齢者の買物行動について、「高齢者の外出の現状・意向と外出支援策」(水野, 2004)として、外出頻度などの調査結果を示しており、かつ「買い物をする場所」に対する考察も行われている。

- ・外出頻度は、全体では週5日以上とそれ未満がそれぞれ約半数を占める。外出頻度が低いのは、年齢の高い人、自動車免許のない人、一緒に出かける人や出かけた場所がそれぞれ少ないと感じている人などである。
- ・場所ごとの外出頻度をみると、月1日以上出かけた割合は「買い物をする場所」「会合・サークル活動・学習のための施設」「病院、診療所」「飲食店」において特に高い。
- ・行くのが楽しいと答えた人が特に多い場所は、「行楽地、観光地」「文化・娯楽施設」「買い物をする場所」である。これらの場所への外出頻度を外出時の問題点別にみると、外出時の疲れやすさ、一緒に出かける人の少なさ、自動車免許の有無は、「行楽地、観光地」「文化・娯楽施設」への外出頻度とは関連しているが、「買い物をする場所」への外出頻度とは関連していない。
- ・行く頻度を増やしたいと思う人が多い場所は、「行楽地、観光地」「文化・娯楽施設」「会合・サークル活動・学習のための施設」であり、いずれも過半数を占めている。年齢層別にみると、年代が高くなるにつれ「買い物をする場所」の順位が上がる。
- ・調査結果から、高齢者の外出支援のためには、自家用車の代替手段の整備、高齢者が行きたくなる場の提供、人的ネットワークの構築などが特に重要と考えられる。

(2) 心理的アプローチ

鈴木他(2014)は高齢者の買物における多様な価値の必要性和、買物弱者支援方策の利用意向について分析を行っている。多様な価値として設定した項目は、1)買物をすることで気分転換をすること、2)友人や知人と一緒に買物に行

埼玉県西部地域における買物行動の分析

き、楽しく過ごすこと、3)買物先の店員との会話や情報交換を楽しむこと、4)買物をする際に地域の様子や変化を知ること、5)実際に手に取って、好みの商品を買うこと、6)目的の商品以外にも、いろいろな商品を見て買うこと、7)買物と一緒に食事や趣味の時間を過ごすこと、を挙げている。このうち、1)と5)において高い必要性が示されたとしている。また、買物における多様な価値の達成に影響する要因としての店舗の種類の分析では、特に「スーパーマーケット」の利用において、他の店舗より多様な価値が達成されているとの結果となったと報告されている。

買物における満足度に注目した研究（鈴木他、2010）では、居住地域への愛着の水準や買物行動における交通機関の差異、買物行動への同伴の有無が買物行動中の「楽しさ」の水準に影響を及ぼす可能性を示唆している。

また、房野（2002）は買物行動は高齢者の「楽しみ」になり得、大規模店舗は高齢者の買物に対する満足感を充足するポイントを押さえているが、人的なサービス面が弱いという結果を示している。

2. 分 析

2-1 調査方法の概要

1)調査の目的

市民がどこで、どのような買物をしているかという買物行動の実態や満足度を把握し、各市の商業による地域振興策を推進する上での基礎資料として活用することを目的とする。

2)調査地域、調査実施期間、調査対象者数、有効回収数

調査地域、調査実施期間、調査対象者数、有効回収数を表2-1に示す。

表2-1 調査地域、調査実施期間、調査対象者数、有効回収数

調査地域	調査実施期間	調査対象者数	有効回収数(回収率)
飯能市	平成24年7月20日～8月31日	2,000世帯	856 (42.8%)
狭山市	平成25年9月5日～9月27日	3,000世帯	1,104 (36.8%)
所沢市	平成27年6月5日～7月31日	5,000世帯	1,843 (36.9%)
入間市	平成28年6月8日～6月30日	3,000世帯	1,251 (41.7%)

3) 調査方法

郵送配布、郵送回収による自記式アンケート調査である。

4) 調査対象の抽出方法

調査年1月1日現在の各市の住民基本台帳から抽出している。

5) 各市の地区別回収数とその構成比、年齢別回収数および大型商業施設数

各市の地区別回収数とその構成比、年齢別回収数および大型商業施設数については、表2-2～表2-5のとおりである。年齢別は65歳未満と65歳以上に分類した。調査時点での地区別の大型商業施設数を表の右部分に示した。

表2-2 飯能市の地区別回収数とその構成比、年齢別回収数および大型商業施設数

地区	回収数	構成比 (%)	回収数うち 65歳以上	回収数うち 65歳未満	無 回 答	商店街・大 型店・食品 スーパー	ホームセン ター・家電 量販店
飯 能	232	27.1	86	142	4	8	1
精 明	130	15.2	49	81		2	1
加 治	183	21.4	71	111	1	1	1
美 杉 台	55	6.4	12	43		1	0
吾 野	42	4.9	36	52		0	0
東 吾 野	46	5.4				0	0
原 市 場	72	8.4	23	49		1	0
南 高 麗	41	4.8	33	60		0	0
名 栗	52	6.1				0	0
無 回 答	3	0.4	1		2		
計	856	100	311	538	7	13	3

表2-3 狭山市の地区別回収数とその構成比、年齢別回収数および大型商業施設数

地区	回収数	構成比 (%)	回収数うち 65歳以上	回収数うち 65歳未満	無 回 答	商店街・大 型店・食品 スーパー	ホームセン ター・家電 量販店
入 間 川	319	28.9	129	189	1	8	2
入 曾	273	24.7	121	151	1	3	0
堀 兼	92	8.3	43	49		0	0
奥富・新狭山	83	7.5	29	54		4	2
柏 原	96	8.7	36	60		1	0
水 富	148	13.4	58	90		4	1
狭 山 台	93	8.4	49	44		1	0
計	1,104	100	465	637	2	21	5

埼玉県西部地域における買物行動の分析

表2-4 所沢市の地区別回収数とその構成比, 年齢別回収数および大型商業施設数

地 区	回収数	構成比 (%)	回収数うち 65歳以上	回収数うち 65歳未満	無 回 答	商店街・大 型店・食品 スーパー	ホームセン ター・家電 量販店
吾 妻	204	11.1	77	127		1	0
小 手 指	282	15.3	130	149	3	5	2
新 所 沢	169	9.2	71	98		4	1
新 所 沢 東	85	4.6	33	51	1	5	0
所 沢	156	8.5	52	103	1	8	3
富 岡	113	6.1	50	63		2	1
並 木	148	8.0	75	72	1	3	0
松 井	213	11.6	98	112	3	5	2
三 ケ 島	207	11.2	95	112		4	1
柳 瀬	102	5.5	31	70	1	1	0
山 口	159	8.6	75	83	1	2	0
無 回 答	5	0.3	1	0	4		
計	1,843	100	788	1,040	15	40	10

表2-5 入間市の地区別回収数とその構成比, 年齢別回収数および大型商業施設数

地 区	回収数	構成比 (%)	回収数うち 65歳以上	回収数うち 65歳未満	無 回 答	商店街・大 型店・食品 スーパー	ホームセン ター・家電 量販店
豊 岡	473	37.8	157	316		11	0
東 金 子	147	11.8	48	99		2	2
金 子	79	6.3	23	56		1	0
宮寺・二本木	80	6.4	21	58	1	3	0
藤 沢	281	22.5	79	201	1	7	4
西 武	186	14.9	57	129		3	0
無 回 答	5	0.4	1	2	2		
計	1,251	100	386	861	4	27	6

6) 調査項目

調査項目は買物回数, 買物予算, 利用交通手段, 買物時間帯, 品目別買物場所, 買物環境満足度, 居住継続意向, その他各市個有の項目である。

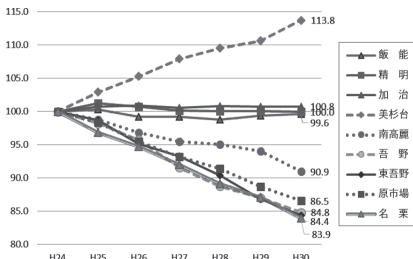
以下の分析では商業施設数を考え, かつ人口集中地区であること, 公共施設の集中地区であることを目安に, 中心市街地を設定した。中心市街地として取り上げたのは, 飯能市飯能地区, 狭山市入間川地区, 入間市豊岡地区と所沢市

新所沢地区である。買物環境が整っていない地区として、飯能市吾野と東吾野地区、狭山市堀兼地区、所沢市山口地区、入間市宮寺・二本木地区を取り上げた。

2-2 各市の人口の推移

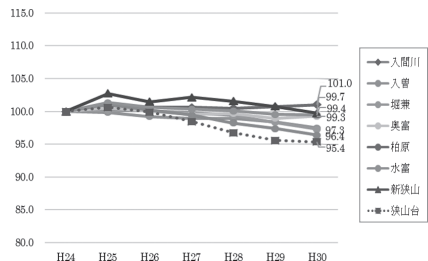
飯能市、狭山市、入間市の平成24年1月1日の人口を100とした各年1月1日の人口の推移、および所沢市は平成25年12月31日を基準とした推移を図2-1～図2-4に示す。所沢市のデータは各年12月31日現在であり、これは翌年1月1日現在とした。

図2-1の飯能市の人口は、美杉台地区奥のエリアに企業誘致が行われ、併せて住宅地も開発されているため、急激な人口増加がみられる。一方で山間地域の吾野、東吾野、原市場、名栗の各地区の減少は平成24年基準の85%までに落ち込んでいる。図2-2の狭山市は緩やかな減少傾向にある。特に狭山台地区は



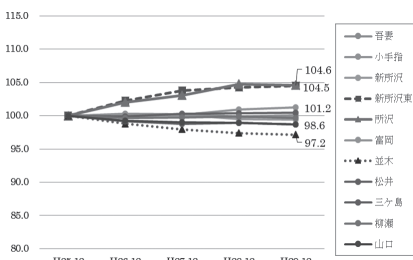
(出所：飯能市「町名(大字)別世帯人口」より作成)

図2-1 飯能市人口推移



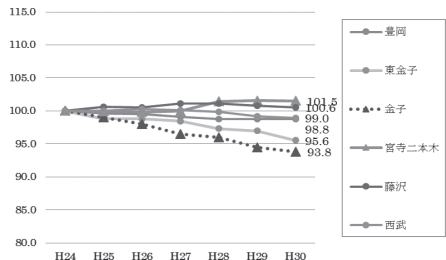
(出所：狭山市「人口と世帯」より作成)

図2-2 狭山市人口推移



(出所：所沢市「年次別人口統計」より作成)

図2-3 所沢市人口推移



(出所：入間市「入間市の人口統計資料」より作成)

図2-4 入間市人口推移

埼玉県西部地域における買物行動の分析

開発から時間が経っているため、建物の老朽化、住民の高齢化が進んでおり減少傾向にある。図2-3の所沢市ではほぼ横ばい傾向にあるが、新所沢東と所沢の各地区でマンション建設が続き人口は増加している。ただし公団のマンション群を持つ並木地区は及び住民の高齢化が進み減少傾向にある。図2-4の入間市は全体的には緩やかな減少傾向にあり、特に金子の減少が継続している。また、宮寺・二本木地区は地区内で宅地開発が行われ、ここ数年人口増加がみられる。

3. 市民の買物行動

市民の買物行動について、次の課題を立てて、調査の集計を行った。

【課題1】 高齢になるにつれて、買物に行く回数は減るのか

【課題2】 身体面での機能低下、能力低下に対して有効な交通手段、方法は何か

【課題3】 買物満足度の要因は何か

【課題4】 居住継続意向の要因は何か

3-1 市全体の1週間の買物回数と交通手段の分析

(1) 市全体の1週間の買物回数

各市全体の1週間の買物回数は、図3-1のとおりである。

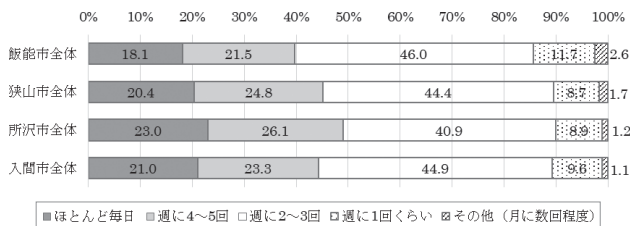


図3-1 各市全体の1週間の買物回数 (%)

買物回数が高頻度（「ほとんど毎日」＋「週に4～5回」）の割合が最も多いのは所沢市で、49.1%と約半数の人が高頻度の買物をしている。次いで狭山市45.2%、入間市44.3%である。飯能市は39.6%である一方で、週1回以下が11.7%と多くなっている。

(2) 市全体の普段の買物で利用する交通手段

各市の普段の買物で利用する交通手段は、図3-2のとおりである。

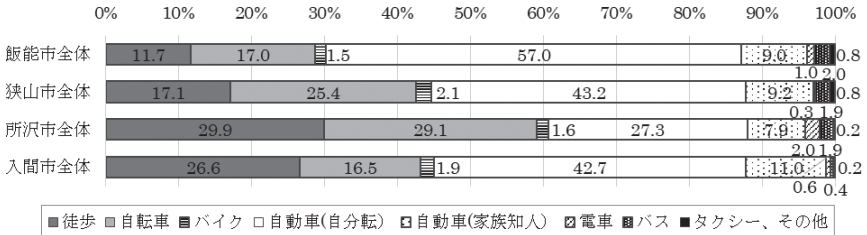


図3-2 普段の買物で利用する交通手段 (%)

普段の買物で利用する交通手段で徒歩、自転車、バイクの割合が多いのは所沢市で、60.6%と半数以上の方が移動距離の短いところに買物に行っている。次いで入間市45.0%、狭山市44.6%である。飯能市は30.2%で、その一方で自動車が66.0%で移動距離が長いことがわかる。

3-2 各市地区別の買物回数

1) 飯能市

飯能市の地区別の買物回数は、図3-3のとおりである。市街地の飯能、精明、加治、美杉台の各地区と山間地の南高麗、吾野、東吾野、原市場、名栗の各地区の間に大きな差がみられる。

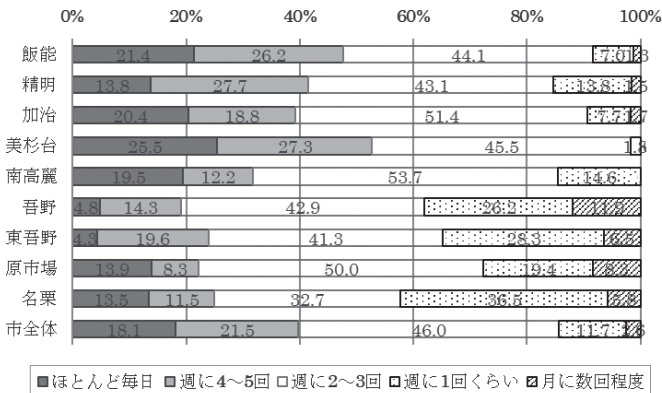


図3-3 地区別にみた1週間の買物回数 (飯能市) (%)

2) 狭山市

狭山市の地区別の買物回数は、図3-4のとおりである。多頻度の割合は、入間川、入曽、奥富・新狭山、水富、狭山台の各地区で45%を越す。堀兼、柏原

埼玉県西部地域における買物行動の分析

地区は地区内に大規模店舗がなく、多頻度の割合が少ない。

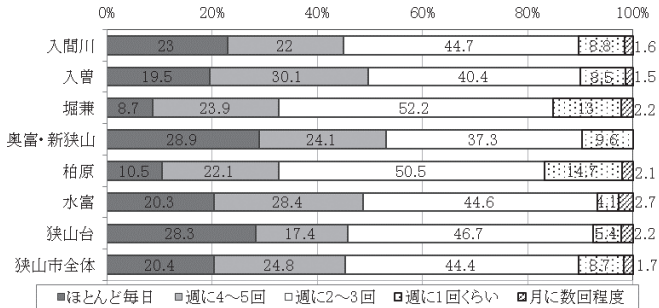


図3-4 地区別にみた1週間の買物回数（狭山市）（%）

3) 所沢市

所沢市の地区別の買物回数は、図3-5のとおりである。所沢市は行政機能は並木地区にあるが、人口集中、商業充実地区として、所沢、新所沢、新所沢東の各地区があるが、多頻度が最も多いのは新所沢地区である。どの地区とも買物環境は整っているが、多頻度の割合が最も少ないのは山口地区である。

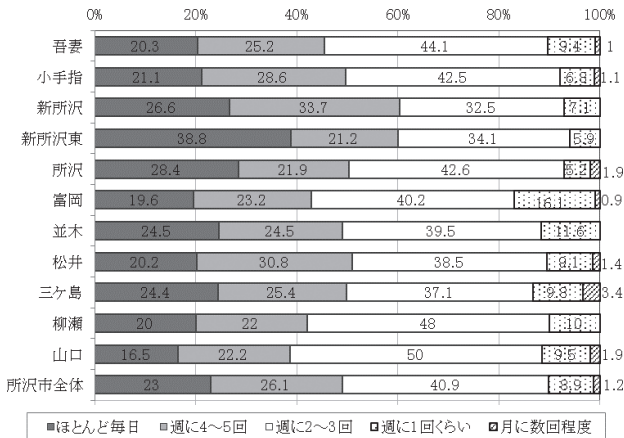


図3-5 地区別にみた1週間の買物回数（所沢市）（%）

4) 入間市

入間市の地区別の買物回数は、図3-6のとおりである。多頻度の割合は豊岡、東金子、藤沢、西武の各地区で40%を超える。多頻度の割合が少ないのは金子と宮寺・二本木地区である。

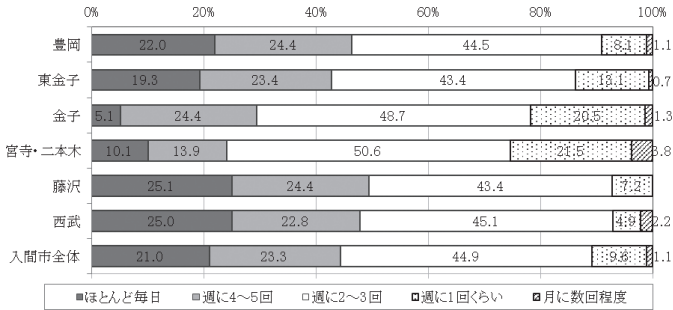


図3-6 地区別にみた1週間の買物回数 (入間市) (%)

5) 地区差の評価

分割表の検定を用いて、2つの分類基準が無関係（独立）であるかどうかを検定した。検定のために、回収データから χ^2 値を計算し、 $\chi^2(a)$ の値と比較し (a は有意水準)、独立であるという仮説を検定した (表3-1参照)。

表3-1 検定表

	χ^2 値	自由度	境界値	P 値
飯能市	119.513	32	46.19	0.000*
狭山市	42.468	24	36.42	0.011*
所沢市	67.912	40	43.77	0.004*
入間市	62.784	20	31.41	0.000*

(*危険率5%で、差がある)

表3-2 飯能市地区別買物回数平均値

	平均			B - A
	年齢全合計	65歳未満 (A)	65歳以上 (B)	
市全体	3.40	3.57	3.17	-0.39
飯能	3.80	3.82	3.90	0.08
精明	3.43	3.65	3.06	-0.59
加治	3.60	3.61	3.63	0.03
美杉台	4.16	4.26	3.83	-0.42
南高麗	3.40	3.41	3.39	-0.02
吾野	2.31	2.54	1.97	-0.57
東吾野	2.50	2.85	2.00	-0.85
原市場	2.79	3.22	1.87	-1.35
名栗	2.64	3.24	1.17	-2.08

埼玉県西部地域における買物行動の分析

以上の結果から、すべての市について地区別に差があることがわかった。そこで地区別に65歳以上の人と65歳未満の人の1週間の買物回数の平均値を比較してみた。平均値は、「ほとんど毎日」を7回、「週に4～5回」を4.5回、「週に2～3回」を2.5回、「週に1回」を1回として重みづけしたものである。表3-2～3-6に示した。年齢別の最高値に網掛をした。また平均値が3回以下の時も網掛した。

飯能市は、65歳未満では美杉台地区の回数が最も多く4.26回であった。65歳以上では飯能地区の回数が最も多く3.90回であった。山間地域の吾野、東吾野、原市場、名栗の各地区の65歳以上の平均回数は2.00回を下回る。吾野、東吾野

表3-3 狭山市地区別買物回数平均値

	平均			B - A
	年齢全合計	65歳未満(A)	65歳以上(B)	
市全体	3.73	3.84	3.57	-0.27
入間川	3.79	3.91	3.64	-0.27
入曽	3.80	3.90	3.66	-0.24
堀兼	3.12	3.30	2.92	-0.38
奥富・新狭山	4.14	4.11	4.19	0.08
柏原	3.11	3.21	2.94	-0.26
水富	3.85	4.12	3.44	-0.68
狭山台	3.94	3.90	3.98	0.08

表3-4 所沢市地区別買物回数平均値

	平均			B - A
	年齢全合計	65歳未満(A)	65歳以上(B)	
市全体	3.85	3.92	3.81	-0.11
吾妻	3.72	3.86	3.47	-0.39
小手指	3.86	4.00	3.77	-0.23
新所沢	4.27	4.42	4.06	-0.36
新所沢東	4.58	4.54	4.58	0.04
所沢	4.06	4.19	3.89	-0.30
富岡	3.55	3.56	3.54	-0.02
並木	3.89	3.78	4.02	0.24
松井	3.76	3.79	3.84	0.05
三ヶ島	3.84	3.87	3.80	-0.07
柳瀬	3.62	3.75	3.40	-0.35
山口	3.47	3.34	3.63	0.28

表3-5 入間市地区別買物回数平均値

	平 均			B - A
	年齢全合計	65歳未満 (A)	65歳以上 (B)	
市全体	3.71	3.66	3.84	0.18
豊岡	3.82	3.64	4.20	0.56
東金子	3.57	3.56	3.60	0.04
金子	2.84	2.88	2.74	-0.14
宮寺・二本木	2.78	2.80	2.74	-0.06
藤沢	3.98	4.02	3.87	-0.15
西武	3.91	3.98	3.76	-0.21

は65歳未満の人も3回を超えない。

狭山市は、水富、奥富・新狭山地区の65歳未満の人の平均値は4回を超える。奥富・新狭山地区は、65歳以上の人でも4回を超える。この地区には楽しみを享受できるイオンショッピングセンターがある。堀兼、柏原地区は65歳以上で3回を超えない。

所沢市は、所沢、新所沢東、新所沢、小手指の各地区の65歳未満の人が4回以上である。また65歳以上でも新所沢周辺地区では4回を超えている。ここには「ペペ」がある。並木地区の65歳以上の人でも4回を超えている。平均値はすべての地区で3回を超えており、活発である。

入間市の65歳未満では藤沢地区が最も多く4回を超えている。65歳以上では、豊岡地区の65歳以上の回数が市で最も大きい値であった。元気な高齢者と言え金子と宮寺・二本木の各地は年齢に関係なく3回を下回っている。

以上より、各市とも商業集積の大きい地区での買物回数の大きさが際立っている。また、飯能市山間部の65歳以上の低さが目立っている。

3-3 各市地区別の詳細分析

前節でみたように買物行動は商業集積との関係が大きい。この節では中心市街地の商業集積地区と、買物環境の整っていない地区を詳細に分析した。

(1) 年齢別地区別買物回数

各市地区別に65歳以上と65歳未満の買物回数に差があるかを調べた。

1) 中心市街地

各市中心市街地の1週間の買物回数を表3-6に示す。

埼玉県西部地域における買物行動の分析

表3-6 各市中心市街地の1週間の買物回数 (%)

		ほとんど毎日	週に4~5回	週に2~3回	週に1回くらい	その他(月に数回)	計	判定
飯能地区	65歳未満	20.4	26.1	45.8	7.0	0.7	100(142)	χ^2 値=1.460 (有意確率0.834) 年齢による差はない
	65歳以上	23.3	25.6	41.9	7.0	2.3	100(86)	
	合計	21.5	25.9	44.3	7.0	1.3	100(228)	
入間川地区	65歳未満	25.4	20.6	45.0	7.9	1.1	100(189)	χ^2 値=2.804 (有意確率0.591) 年齢による差はない
	65歳以上	19.4	24.0	44.2	10.1	2.3	100(129)	
	合計	23.0	22.0	44.7	8.8	1.6	100(318)	
新所沢地区	65歳未満	29.6	34.7	28.6	7.1		100(98)	χ^2 値=1.966 (有意確率0.579) 年齢による差はない
	65歳以上	22.5	32.4	38.0	7.0		100(71)	
	合計	26.6	33.7	32.5	7.1		100(169)	
豊岡地区	65歳未満	18.7	25.1	44.1	10.5	1.6	100(315)	χ^2 値=14.329 (有意確率0.006) 年齢による差がある
	65歳以上	28.7	22.9	45.2	3.2	0.0	100(157)	
	合計	22.0	24.4	44.5	8.1	1.1	100(472)	

各市とも中心市街地では、多頻度の買物(「ほとんど毎日」+「週に4~5回」)が40%台で多く、かつ「週に2~3回」が40%台で同程度である。飯能地区、入間川地区は行動パターンが同じで年齢による差はない。新所沢地区はさらに多頻度が多くなるが年齢による差はない。豊岡地区のパターンもほぼ同じものの、65歳以上の人の活動が活発で、多頻度が50%を超え、かつ週1回以下がほほいないため65歳未満と差が出ており、 χ^2 検定で年齢的に差異が出た。

2) 買物環境が整わない地区

各買物環境が整わない地区の1週間の買物回数を表3-7に示す。

「週に2~3回」がピークであるが多頻度の割合が減少し、吾野・東吾野地区と宮寺・二本木地区では逆に「週に1回くらい」が多頻度より多い。すべての地区で年齢差はない。

(2) 地区別年齢別普段の買物で利用する交通手段

1) 中心市街地

各市中心市街地の普段の買物で利用する交通手段を表3-8に示す。

表3-7 買物環境が整っていない地区の1週間の買物回数 (%)

		ほとんど毎日	週に4~5回	週に2~3回	週に1回くらい	その他(月に数回)	計	判定
吾野・東吾野地区	65歳未満	5.8	19.2	48.1	23.1	3.8	100(52)	χ^2 値=6.541 (有意確率0.162) 年齢による差はない
	65歳以上	2.8	13.9	33.3	33.3	16.7	100(36)	
	合計	4.5	17.0	42.0	27.3	9.1	100(88)	
堀兼地区	65歳未満	10.2	24.5	55.1	10.2	0.0	100(49)	χ^2 値=3.388 (有意確率0.495) 年齢による差はない
	65歳以上	7.0	23.3	48.8	16.3	4.7	100(43)	
	合計	8.7	23.9	52.2	13.0	2.2	100(92)	
山口地区	65歳未満	13.4	24.4	50.0	9.8	2.4	100(82)	χ^2 値=1.626 (有意確率0.804) 年齢による差はない
	65歳以上	20.0	20.0	49.3	9.3	1.3	100(75)	
	合計	16.6	22.3	49.7	9.6	1.9	100(157)	
宮寺・二本木地区	65歳未満	10.3	13.8	51.7	20.7	3.4	100(58)	χ^2 値=0.204 (有意確率0.995) 年齢による差はない
	65歳以上	9.5	14.3	47.6	23.8	4.8	100(21)	
	合計	10.1	13.9	50.6	21.5	3.8	100(79)	

表3-8 普段の買物で利用する交通手段 (%)

		徒歩	自転車	バイク	自動車(自分で運転)	自動車(家族や知人)	電車	バス	タクシー	その他	計	判定
飯能地区	65歳未満	18.3	21.1		59.2	1.4	0.0		0.0	0.0	100(142)	χ^2 値=28.598 (有意確率0.000) 年齢による差がある
	65歳以上	34.9	25.6		27.9	8.1	1.2		1.2	1.2	100(86)	
	合計	24.6	22.8		47.4	3.9	0.4		0.4	0.4	100(228)	
入間川地区	65歳未満	17.6	23.9	0.5	50.5	5.9	0.5	0.0	0.0	1.1	100(188)	χ^2 値=32.601 (有意確率0.000) 年齢による差がある
	65歳以上	28.3	31.5	3.1	23.6	10.2	0.0	2.4	0.8	0.0	100(127)	
	合計	21.9	27.0	1.6	39.7	7.6	0.3	1.0	0.3	0.6	100(315)	
新所沢地区	65歳未満	34.7	42.9	1.0	17.3	3.1	1.0				100(98)	χ^2 値=10.594 (有意確率0.060) 年齢による差はない
	65歳以上	52.9	25.7	0.0	11.4	8.6	1.4				100(70)	
	合計	42.3	35.7	0.6	14.9	5.4	1.2				100(168)	
豊岡地区	65歳未満	23.1	13.9	1.9	49.4	10.4	0.9	0.3	0.0		100(316)	χ^2 値=22.186 (有意確率0.002) 年齢による差がある
	65歳以上	33.8	21.7	1.9	29.3	12.1	0.0	0.6	0.6		100(157)	
	合計	26.6	16.5	1.9	42.7	11.0	0.6	0.4	0.2		100(473)	

中心市街地全体では、普段の買物で利用する交通手段に年齢による差があるという判定が多い。新所沢地区以外は基本的には65歳未満が「自動車」、65歳以上が「徒歩」である。飯能地区と豊岡地区がそのパターンである。入間川地区は65歳以上は「自転車」と「徒歩」となっている。新所沢地区では、交通手

埼玉県西部地域における買物行動の分析

段に年齢差がない。65歳未満は「自転車」が多く、65歳以上は「徒歩」が圧倒的に多いが、自動車利用が非常に少ない点が一致している。

以上より、65歳以上で飯能地区、新所沢地区、豊岡地区で「徒歩」が一番多く、入間川地区は「自転車」と自力が多くなっている。65歳未満は飯能地区、入間川地区、豊岡地区ではほぼ50%以上で自分で運転する「自動車」利用である。

2) 買物環境が整わない地区

各買物環境が整わない地区の普段の買物で利用する交通手段を表3-9に示す。

表3-9 普段の買物で利用する交通手段（％）

		徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で 運転)	自動車 (家族や 知人)	電車	バス	タク シー	その他	計	判 定
吾野・ 東吾野 地区	65歳未満		7.7	1.9	78.8	5.8	5.8			0.0	100(52)	χ^2 値 = 8.863 (有意確率0.115) 年齢による差はない
	65歳以上		0.0	0.0	69.4	19.4	8.3			2.8	100(36)	
	合 計		4.5	1.1	75.0	11.4	6.8			1.1	100(88)	
堀兼 地区	65歳未満	4.1	14.3	4.1	71.4	6.1		0.0			100(49)	χ^2 値 = 23.098 (有意確率0.000) 年齢による差がある
	65歳以上	16.7	16.7	7.1	26.2	21.4		11.9			100(42)	
	合 計	9.9	15.4	5.5	50.5	13.2		5.5			100(91)	
山口 地区	65歳未満	19.3	15.7	3.6	54.2	3.6	3.6	0.0	0.0		100(83)	χ^2 値 = 21.116 (有意確率0.004) 年齢による差がある
	65歳以上	16.2	24.3	9.5	27.0	13.5	2.7	5.4	1.4		100(74)	
	合 計	17.8	19.7	6.4	41.4	8.3	3.2	2.6	0.6		100(157)	
宮寺・ 二本木 地区	65歳未満	5.2	3.4		81.0	10.3					100(58)	χ^2 値 = 15.191 (有意確率0.002) 年齢による差がある
	65歳以上	9.5	4.8		38.1	47.6					100(21)	
	合 計	6.3	3.8		69.6	20.3					100(79)	

買物環境が整わない地区では、吾野・東吾野地区以外は年齢によって差がある。65歳未満の基本的な交通手段は自分で運転する「自動車」である。吾野・東吾野地区、堀兼地区、宮寺・二本木地区では70%を超えている。

吾野・東吾野地区は地区全体で年齢に関係なく「自動車」を使わざるを得ないことがわかる。堀兼地区は年齢差がある。65歳未満は自分で運転する「自動車」利用が多く、65歳以上は手段が分散している。山口地区は年齢差がある。65歳未満は自分で運転の「自動車」利用が多く、65歳以上は手段が分散している。宮寺・二本木地区は年齢差があり、65歳未満は自分で運転する「自動車」利用が多く、65歳以上は家族や知人の車に同乗である。手段の選択肢が少なく、使える交通手段が限られている。

(3) 地区別年齢別買物場所

各市内地区と市外に行く割合を調べた。

- 1) 飯能地区居住者の買物場所を表3-10に示す。65歳以上の飯能地区内買物割合は87.9%で圧倒的に飯能地区内の買物場所に行っている。65歳未満は地区内割合は75.6%である。
- 2) 吾野・東吾野地区居住者の買物場所を表3-11, 12に示す。東吾野地区にドラッグストアがあるため両地区は若干異なる。吾野地区は全体では①飯能地

表3-10 飯能地区居住者の年齢別買物場所

商業集積地	65歳未満	65歳以上	合計
飯能	①75.6	①87.9	①79.9
精明	②9.0	1.8	②6.5
加治	③4.0	③2.5	③3.5
美杉台	3.2	②3.9	③3.5
南高麗	0.0	0.0	0.0
吾野	0.0	0.0	0.0
東吾野	0.0	0.0	0.0
原市場	0.0	1.8	0.6
名栗	0.0	0.0	0.0
飯能市内吸引率	91.8	97.9	93.9
飯能市外流出率	8.2	2.1	6.1
入間市	1.3	0.0	0.9
日高市	2.9	0.7	2.1
県内他市	0.4	0.0	0.2
都心部	0.0	0.0	0.0
青梅市	1.1	0.4	0.9
瑞穂町	0.4	0.4	0.4
東京以外の県外	0.2	0.0	0.1
通販	1.9	0.7	1.5

表3-11 吾野地区居住者の年齢別買物場所

商業集積地	65歳未満	65歳以上	合計
吾野	1.1	0.0	0.7
飯能	①51.1	①60.0	①54.3
精明	6.8	6.0	6.5
加治	1.1	6.0	2.9
美杉台	0.0	0.0	0.0
南高麗	0.0	0.0	0.0
東吾野	②17.0	6.0	②13.0
原市場	0.0	0.0	0.0
名栗	0.0	0.0	0.0
飯能市内吸引率	77.3	78.0	77.5
飯能市外流出率	22.7	22.0	22.5
入間市	2.3	0.0	1.4
日高市	③9.1	②12.0	③10.1
秩父市	8.0	③10.0	8.7
県内他市	3.4	0.0	2.2
その他県外	0.0	0.0	0.0

埼玉県西部地域における買物行動の分析

区、②東吾野地区、③日高市の順である。65歳以上は①飯能地区、②日高市、③秩父市であり、古くからのつながりが大きい秩父市がある。東吾野地区はほぼ年齢差なく①飯能地区、②東吾野地区、③日高市である。

3)入間川地区居住者の買物場所を表3-13に示す。2位までの順位には年齢差がなく、①入間川地区、②入曽地区である。次いで65歳未満は③水富地区、65歳以上は③狭山台であった。

表3-12 東吾野地区居住者の年齢別買物場所

商業集積地	65歳未満	65歳以上	合計
東吾野	②19.1	②26.7	②22.1
飯能	①51.1	①46.7	①49.4
精明	4.3	1.7	3.2
加治	0.0	5.0	1.9
美杉台	0.0	0.0	0.0
南高麗	0.0	0.0	0.0
吾野	2.1	0.0	1.3
原市場	0.0	0.0	0.0
名栗	0.0	0.0	0.0
飯能市内吸引率	76.6	80.0	77.9
飯能市外流出率	23.4	20.0	22.1
入間市	1.1	0.0	0.6
日高市	②19.1	③20.0	③19.5
秩父市	2.1	0.0	1.3
県内他市	0.0	0.0	0.0
その他県外	1.1	0.0	0.6

表3-13 入間川地区居住者の買物場所

商業集積地	65歳未満	65歳以上	合計
入間川	①61.0	①68.4	①63.6
入曽	②15.1	②15.7	②15.3
堀兼	0.1	0.0	0.1
奥富	2.3	0.8	1.8
新狭山	0.6	0.8	0.7
柏原	0.0	0.0	0.0
水富	③7.3	5.1	③6.6
狭山台	2.2	③5.7	3.4
狭山市内吸引率	88.7	96.5	91.4
狭山市外流出率	11.3	3.5	8.6
入間市	7.0	1.4	5.0
所沢市	1.0	0.0	0.7
飯能市	0.3	0.0	0.2
川越市	0.7	0.8	0.8
日高市	0.9	0.3	0.7
県内他市	0.4	0.0	0.3
都心部	0.3	0.0	0.2
都下	0.0	0.3	0.1
東京以外の県外	0.0	0.0	0.0
通販	0.6	0.8	0.7

- 4) 堀兼地区居住者の買物場所を表3-14に示す。堀兼地区には、大型店舗がない。3位までの順位には年齢差がなく、①入間川地区、②新狭山地区、③狭山台地区であった。
- 5) 新所沢地区居住者の買物場所を表3-15に示す。新所沢地区には、大型店舗ペがあり、また近接地に小手指地区がある。3位までの順位には年齢差がなく、①新所沢地区、②小手指地区、③新所沢東地区であった。
- 6) 山口地区居住者の買物場所を表3-16に示す。山口地区には、食品スーパーが2店舗ある。また近接地に小手指地区がある。3位までの順位には年齢差がな

表3-14 堀兼地区居住者の買物場所

商業集積地	65歳未満	65歳以上	合計
堀兼	2.1	1.6	1.9
入間川	①40.1	①38.9	①39.6
入曽	12.8	8.7	11.2
奥富	2.7	0.8	1.9
新狭山	②17.1	②31.0	②22.7
柏原	0.0	0.0	0.0
水富	0.0	0.0	0.0
狭山台	③17.1	③6.3	③12.8
狭山市内吸引率	92.0	87.3	90.1
狭山市外流出率	8.0	12.7	9.9
入間市	0.0	0.8	0.3
所沢市	2.1	3.2	2.6
川越市	3.7	3.2	3.5
日高市	0.0	3.2	1.3
県内他市	1.6	2.4	1.9
都心部	0.0	0.0	0.0
都下	0.0	0.0	0.0
通販	0.5	0.0	0.3

表3-15 新所沢地区居住者の買物場所

商業集積地	65歳未満	65歳以上	合計
新所沢	①64.4	①73.4	①67.9
吾妻	0.0	0.8	0.3
小手指	②22.0	②13.9	②18.8
新所沢東	③4.3	③5.5	③4.8
所沢	2.7	2.1	2.5
富岡	0.5	0.8	0.7
並木	0.8	0.8	0.8
松井	0.0	0.0	0.0
三ヶ島	0.0	0.0	0.0
柳瀬	0.0	0.0	0.0
山口	0.0	0.0	0.0
所沢市内吸引率	94.8	97.5	95.9
所沢市外流出率	5.2	2.5	4.1
入間市	0.8	0.0	0.5
川越市	0.8	0.0	0.5
県内他市	0.0	0.4	0.2
都心部	0.3	0.0	0.2
都下	0.5	0.0	0.3
通販	2.7	2.1	2.5

埼玉県西部地域における買物行動の分析

く、①山口地区、②小手指地区、③所沢地区であった。この地区の特徴として3位の所沢地区があげられる。隣接地でしかも買物場所としての楽しみがその理由となるだろう。65歳以上は約98%が市内だが、65歳未満は都下への流出が多い。

- 7) 豊岡地区居住者の買物場所を表3-17に示す。豊岡地区には、中心市街地としての公共施設、商業施設が集中している。3位までの順位は年齢関係なく、①豊岡地区、②藤沢地区、③東金子地区であった。

表3-16 山口地区居住者の買物場所

商業集積地	65歳未満	65歳以上	合計
山口	①33.6	①48.3	①40.5
吾妻	4.9	1.5	3.3
小手指	②28.6	②30.3	②29.4
新所沢	1.3	1.1	1.2
新所沢東	0.0	0.0	0.0
所沢	③13.5	③15.0	③14.2
富岡	0.7	0.0	0.4
並木	1.6	0.4	1.1
松井	0.0	0.0	0.0
三ヶ島	2.3	1.1	1.8
柳瀬	0.0	0.0	0.0
所沢市内吸引率	86.5	97.8	91.8
所沢市外流出率	13.5	2.2	8.2
入間市	1.6	0.0	0.9
狭山市	0.3	0.0	0.2
県内他市	0.0	0.4	0.2
都心部	0.0	0.0	0.0
都下	7.2	1.1	4.4
東京以外の県外	1.0	0.4	0.7
通販	3.3	0.4	1.9

表3-17 豊岡地区居住者の買物場所

商業集積地	65歳未満	65歳以上	合計
豊岡	①58.5	①65.1	①60.6
東金子	③2.1	③0.9	③1.8
金子	0.0	0.0	0.0
宮寺・二本木	0.7	0.8	0.7
藤沢	②31.4	②27.1	②30.1
西武	1.5	1.7	1.6
入間市内吸引率	94.2	95.5	94.6
入間市外流出率	5.8	4.5	5.4
所沢市	1.0	0.6	0.9
狭山市	1.5	0.9	1.3
飯能市	0.8	0.6	0.8
県内他市	0.4	0.9	0.6
都心部	0.1	0.0	0.1
都下	0.7	0.9	0.8
東京以外県外	0.1	0.0	0.1
通販	1.1	0.6	0.9

8)宮寺・二本木地区居住者の買物場所を表3-18に示す。

地区内の買物環境が整っていないので、年齢によって買物場所が異なる。3位までの順位は65歳以上では、①藤沢地区、②豊岡地区、③東金子地区であった。65歳未満では、①藤沢地区、②都下、③豊岡地区であった。藤沢地区は武蔵藤沢駅周辺やイオンショッピングセンターがある。都下はショッピングセンターTHE MALLみずほ16がある。入間市外流出率は35.1%である。65歳未満の行動範囲の広さは、やはり自分で運転する「自動車」が可能にしている。

表3-18 宮寺・二本木地区居住者の買物場所

商業集積地	65歳未満	65歳以上	合計
宮寺	3.5	11.8	5.1
豊岡	③9.5	②17.7	③11.1
東金子	8.9	③15.7	10.3
金子	0.0	2.0	0.4
藤沢	①39.2	①35.3	①38.3
西武	4.0	2.0	3.5
入間市内吸引率	64.9	84.3	68.8
入間市外流出率	35.1	15.7	31.2
所沢市	4.5	5.9	4.7
飯能市	1.5	2.0	1.6
県内他市	4.5	0.0	3.6
都心部	0.0	0.0	0.0
都下	②22.3	7.8	②19.4
東京以外県外	2.0	0.0	1.6
通販	0.5	0.0	0.4

3-4 買物満足度および居住意向

(1) 地区別年齢別買物満足度

買物満足度に年齢が関係するかどうかを調べた。

1) 中心市街地

中心市街地の買物満足度を表3-19に示す。各市とも「まあ満足している」が最も多くなった。独立性の検定では飯能地区、入間川地区、豊岡地区は年齢による差はなかったが、新所沢地区のみ年齢による差が認められ、65歳未満で「満足している」が非常に多く、若い人に人気のある街であることがわかった。

埼玉県西部地域における買物行動の分析

表3-19 中心市街地の買物満足度 (%)

		満足している	まあ満足している	あまり満足していない	満足していない	計	判定
飯能地区	65歳未満	12.5	47.8	25.0	14.7	100(136)	χ^2 値=0.555 (有意確率0.907) 年齢による差はない
	65歳以上	10.8	51.8	25.3	12.0	100(83)	
	合計	11.9	49.3	25.1	13.7	100(219)	
入間川地区	65歳未満	28.0	52.2	11.5	8.2	100(182)	χ^2 値=1.307 (有意確率0.727) 年齢による差はない
	65歳以上	27.7	56.3	10.9	5.0	100(119)	
	合計	27.9	53.8	11.3	7.0	100(301)	
新所沢地区	65歳未満	42.9	50.0	5.1	2.0	100(182)	χ^2 値=11.584 (有意確率0.009) 年齢による差はある
	65歳以上	21.4	58.6	12.9	7.1	100(119)	
	合計	33.9	53.6	8.3	4.2	100(301)	
豊岡地区	65歳未満	17.1	60.0	18.1	4.8	100(315)	χ^2 値=0.618 (有意確率0.892) 年齢による差はない
	65歳以上	18.6	61.5	16.0	3.8	100(156)	
	合計	17.6	60.5	17.4	4.5	100(471)	

表3-20 買物環境が整っていない地区の買物満足度 (%)

		満足している	まあ満足している	あまり満足していない	満足していない	計	判定
吾野地区	65歳未満	0.0	36.0	28.0	36.0	100(25)	χ^2 値=5.358 (有意確率0.147) 年齢による差はない
	65歳以上	13.3	13.3	26.7	46.7	100(15)	
	合計	5.0	27.5	27.5	40.0	100(40)	
東吾野地区	65歳未満	3.7	40.7	33.3	22.2	100(27)	χ^2 値=2.222 (有意確率0.528) 年齢による差はない
	65歳以上	11.1	50.0	16.7	22.2	100(18)	
	合計	6.7	44.4	26.7	22.2	100(45)	
堀兼地区	65歳未満	12.8	46.8	25.5	14.9	100(47)	χ^2 値=1.403 (有意確率0.705) 年齢による差はない
	65歳以上	11.9	50.0	16.7	21.4	100(42)	
	合計	12.4	48.3	21.3	18.0	100(89)	
山口地区	65歳未満	17.1	47.6	24.4	11.0	100(47)	χ^2 値=3.996 (有意確率0.262) 年齢による差はない
	65歳以上	16.4	61.6	16.4	5.5	100(42)	
	合計	16.8	54.2	20.6	8.4	100(89)	
宮寺・二本木地区	65歳未満	0.0	39.0	28.8	32.2	100(59)	χ^2 値=7.354 (有意確率0.061) 年齢による差はない
	65歳以上	10.0	35.0	15.0	40.0	100(20)	
	合計	2.5	38.0	25.3	34.2	100(79)	

2) 買物環境が整っていない地区

買物環境が整っていない地区の買物満足度を表3-20に示す。表をみると、

「まあ満足している」多かったが、吾野地区では年齢を問わず、宮寺・二本木地区では65歳以上で「満足していない」が最多となっている。年齢差はないが地区別に満足度は異なる。

3) 満足度平均ランキング

次に各市各地区ごとに、「満足している」4点, 「まあ満足している」3点, 「あまり満足していない」2点, 「満足していない」1点として平均値を計算した。

表3-21に満足度ランキングを示した。上位10位には所沢市5地区, 狭山市3地区, 入間市2地区が入っており, 多頻度割合も高く大型店の多い買物環境の整っている地区である。年齢別では65歳以上5地区, 65歳未満5地区である。満足度下位10位では, 飯能市5地区, 入間市3地区, 狭山市2地区で, 年齢に関係なく買物回数の多頻度割合が低い地区があげられている。年齢別では65歳以上5地区, 65歳未満5地区で年齢としての特徴はない。つまり満足度は買物環境が整っているかどうかで異なることがわかった。

表3-21 買物満足度ランキング

順位	市名	地区名	65歳未満以上	満足度平均	順位	市名	地区名	65歳未満以上	満足度平均
1	所沢市	新所沢東	65歳未満	3.39	57	飯能市	原市場	65歳以上	2.26
2	狭山市	狭山台	65歳未満	3.39	58	狭山市	柏原	65歳未満	2.26
3	所沢市	新所沢	65歳未満	3.34	59	入間市	金子	65歳以上	2.26
4	所沢市	新所沢東	65歳以上	3.19	60	飯能市	東吾野	65歳未満	2.26
5	所沢市	所沢	65歳以上	3.12	61	狭山市	柏原	65歳以上	2.21
6	狭山市	狭山台	65歳以上	3.11	62	入間市	宮寺・二本木	65歳以上	2.15
7	狭山市	入間川	65歳以上	3.07	63	飯能市	原市場	65歳未満	2.08
8	入間市	藤沢	65歳未満	3.02	64	入間市	宮寺・二本木	65歳未満	2.07
9	所沢市	小手指	65歳未満	3.01	65	飯能市	吾野	65歳未満	2.00
10	入間市	藤沢	65歳以上	3.01	66	飯能市	吾野	65歳以上	1.93

埼玉県西部地域における買物行動の分析

(2) 地区別年齢別居住継続意向

1) 中心市街地

中心市街地の居住継続意向を表3-22にまとめた。入間市調査は、他市の調査の「住み続けたい」に該当するものとして「ぜひ住み続けたい」+「できれば住み続けたい」を考えた。表を見ると、地区で年齢に関係なく「住み続けたい」がほぼ80%以上の割合であった。また、年齢別には65歳以上の方が未満よりも割合が高かった。飯能地区は他市に比べて「できれば市外に転居したい」が10%を超えている。しかも年齢による差はない。入間川地区、豊岡地区も年齢による差はなかった。しかし新所沢地区は、65歳未満で「できれば市外に転居したい」が12.2%で、若い人の市外への移動希望が明かであった。

2) 買物環境が整っていない地区

買物環境が整っていない地区の居住継続意向を表3-23に示す。

表をみると、すべての地区で年齢に関係なく「住み続けたい」が最も高かった。しかしその値が中心市街地の値より低い値であった。差が最も大きかった

表3-22 中心市街地の居住継続意向 (%)

		住み続けたい	市内の別の場所に転居したい	できれば市外に転居したい	市外に転居したい	計	判定
飯能地区	65歳未満	78.6	4.3	14.3	2.9	100(140)	χ^2 値=1.502 (有意確率0.682) 年齢による差はない
	65歳以上	81.9	6.0	10.8	1.2	100(83)	
	合計	79.8	4.9	13.0	2.2	100(223)	
入間川地区	65歳未満	81.0	3.8	9.2	6.0	100(184)	χ^2 値=3.429 (有意確率0.330) 年齢による差はない
	65歳以上	87.5	4.2	4.2	4.2	100(120)	
	合計	83.6	3.9	7.2	5.3	100(2,304)	
新所沢地区	65歳未満	81.6	2.0	12.2	4.1	100(184)	χ^2 値=10.537 (有意確率0.015) 年齢による差はある
	65歳以上	91.2	5.9	0.0	2.9	100(120)	
	合計	85.5	3.6	7.2	3.6	100(2,304)	
		ぜひ住み続けたい	できれば住み続けたい	できれば市外に転居したい	市外に転居したい	計	
豊岡地区	65歳未満	40.3	47.6	8.9	3.2	100(313)	χ^2 値=5.897 (有意確率0.117) 年齢による差はない
	65歳以上	38.4	55.6	5.3	0.7	100(151)	
	合計	39.7	50.2	7.8	2.4	100(464)	

表3-23 買物環境の整っていない地区の居住継続意向 (%)

		住み続けたい	市内の別の場所に転居したい	できれば市外に転居したい	市外に転居したい	計	判定
吾野地区	65歳未満	56.0	24.0	16.0	4.0	100(25)	χ^2 値 = 2.666 (有意確率0.446) 年齢による差はない
	65歳以上	50.0	43.8	6.3	0.0	100(16)	
	合計	53.7	31.7	12.2	2.4	100(41)	
東吾野地区	65歳未満	77.8	7.4	11.1	3.7	100(27)	χ^2 値 = 1.406 (有意確率0.704) 年齢による差はない
	65歳以上	89.5	5.3	5.3	0.0	100(19)	
	合計	82.6	6.5	8.7	2.2	100(46)	
堀兼地区	65歳未満	76.7	7.0	11.6	4.7	100(43)	χ^2 値 = 3.217 (有意確率0.359) 年齢による差はない
	65歳以上	88.1	7.1	2.4	2.4	100(42)	
	合計	82.4	7.1	7.1	3.5	100(85)	
山口地区	65歳未満	75.3	9.9	13.6	1.2	100(43)	χ^2 値 = 7.671 (有意確率0.053) 年齢による差はない
	65歳以上	87.8	4.1	4.1	4.1	100(42)	
	合計	81.3	7.1	9.0	2.6	100(85)	
		ぜひ住み続けたい	できれば住み続けたい	できれば市外に転居したい	市外に転居したい	計	
宮寺・二本木地区	65歳未満	32.1	51.8	10.7	5.4	100(56)	χ^2 値 = 2.201 (有意確率0.532) 年齢による差はない
	65歳以上	47.4	42.1	10.5	0.0	100(19)	
	合計	36.0	49.3	10.7	4.0	100(75)	

のは、飯能市の吾野地区で飯能地区と比べ合計で26.1%低い割合であった。しかし吾野地区は「市内の別の場所に転居したい」がとび抜けて高い割合を示し、飯能市への愛着は高いことがわかる。また、いずれの地区も65歳未満の「できれば市外に転居したい」が10%を超えている。

次に各市各地区ごとに、「住み続けたい」の割合をもとに表3-24のようにに居住継続意向ランキングを示した。上位は入間市6地区、所沢市3地区、飯能市1地区となった。年齢別ではすべて65歳以上であった。満足度下位10位では、飯能市6地区、所沢市2地区、狭山市2地区であった。買物回数の多頻度割合が低い地区であった。年齢別では65歳以上3地区、65歳未満7地区である。居住継続意向は高齢者にとってその意向が強いことがわかる。

埼玉県西部地域における買物行動の分析

表3-24 居住継続意向ランキング

No.	市名	居住地区	住み続けたい(%)	No.	市名	居住地区	住み続けたい(%)
1	入間市	東金子 65歳以上	97.7	57	飯能市	加治 65歳未満	69.9
2	入間市	西武 65歳以上	96.3	58	所沢市	柳瀬 65歳未満	69.6
3	入間市	豊岡 65歳以上	94.0	59	所沢市	富岡 65歳未満	69.5
4	所沢市	所沢 65歳以上	92.3	60	狭山市	狭山台 65歳未満	67.4
5	入間市	藤沢 65歳以上	92.0	61	狭山市	入曽 65歳未満	67.1
6	所沢市	並木 65歳以上	91.9	62	飯能市	原市場 65歳未満	66.7
7	所沢市	新所沢 65歳以上	91.2	63	飯能市	原市場 65歳以上	65.0
8	飯能市	名栗 65歳以上	90.9	64	飯能市	美杉台 65歳以上	58.3
9	入間市	東金子 65歳以上	97.7	65	飯能市	吾野 65歳未満	56.0
10	入間市	西武 65歳以上	96.3	66	飯能市	吾野 65歳以上	50.0

(3) 居住継続意向の要因分析

最後に居住継続意向にどのような要因が関係しているかを分析した。まず居住継続意向に「住み続けたい」4点～「市外に転居したい」1点を付加した。この値が目的変数の値である。また、これまでの検討の中で、居住継続意向には次の3要因が関係していると考えられた。

- ・買物回数（多頻度の時1のダミー変数）
- ・年齢（65歳以上の時1のダミー変数）
- ・買物に関する満足度（飲食料品に関わる）：「満足している」4点～「満足していない」1点を付加した）

各市別の回答者についてこれら3変数を説明変数として変数減少法による回帰分析を行った。その結果を表3-25に示す。

表を見ると、すべての市で居住継続意向に買物満足度が有意に影響していることがわかる。すべての市で買物回数は選択されなかった。

さらに年齢については、狭山市、所沢市、入間市では65歳以上であると、継続意向がプラスに影響することがわかる。しかし飯能市では年齢によらず、買物満足度のみが影響していることがわかる。

表3-25 居住継続意向の回帰分析結果

変数	飯能市		狭山市		所沢市		入間市	
	係数	T値(判定)	係数	T値(判定)	係数	T値(判定)	係数	T値(判定)
切片	2.781		2.977		3.090		2.594	
年齢65歳以上			0.284	5.30 (*)	0.204	5.68 (*)	0.103	2.42 (*)
満足度	0.318	9.94 (*)	0.175	5.99 (*)	0.171	7.85 (*)	0.230	9.50 (*)
決定係数	0.1107		0.056		0.050		0.076	
補正R2	0.1096		0.054		0.049		0.074	
サンプル数	813		1025		1784		1204	

(* 危険率5%で有意)

4. 考 察

4-1 高齢者の買物行動

【課題1】 高齢になるにつれて、買物に行く回数は減のか。

1) 地区別年齢別買物回数平均値

65歳以上の買物回数の平均値を見ると、最大値は新所沢東地区で4.58回、次いで豊岡地区、奥富・新狭山地区と商業施設の多い地区が続く。最小値は名栗地区の1.17回、次いで原市場地区、吾野地区で飯能市山間地域である。増減をみると、33地区中23地区(70%)で買物回数平均値が65歳未満に比べ減少しており、各市全体も入間市以外は減少である。減少の傾向があると言える。減少幅は名栗地区が最も大きく、-2.08回であった。最大増加は豊岡地区で0.56回増加であった。

2) 地区別年齢別買物回数

中心市街地、環境の整っていない地区を対象に、同じ地区で買物回数の分布に年齢による差があるかどうかを検定した。8地区中、豊岡地区以外の地区は年齢による差はなかった。地区内での買物回数分布に年齢差はないことがわかる。違いのあった豊岡地区は65歳以上の人の約3割が「ほとんど毎日」買物に出かけ、65歳未満と10%の違いがある。一方で、65歳未満の人の「週に1回」+「その他」が65歳以上の人の値の4倍いることがあげられる。

減る要因について吾野地区で考えると、買物回数の平均値は全地区に中で最も低い値である。65歳以上の人の買物回数は「週に1回」+「その他(月に数

回)」が約半数を占める。満足度ランキング，居住継続意向ランキングともに最下位である。交通手段は65歳未満にはあった自転車，バイクの計9.6%がゼロになり，自分運転の自動車が約10%減少，家族や知人の車が約14%増加，電車，その他が増加となり買物交通手段に不自由さがあると考えられる。課題2につながるがこれが要因の1つと考えた。

【課題2】身体面での機能低下，能力低下に対して有効な交通手段，方法は何か

中心市街地，環境の整っていない地区を対象で，交通手段については，中心市街地及びそうではない地区ともに交通手段に年齢による差がある。高齢者は基本的に徒歩，自転車であるが，65歳未満は自動車利用である。65歳未満は自分の行きたいところに自動車で行っているが，高齢者は自力で行ける範囲に限られた買物である。

年齢による差がないのは，新所沢地区と吾野・東吾野地区である。この2地区は新所沢地区は徒歩・自転車に年齢差なく集中している。吾野・東吾野地区はともに自動車（自分で運転）に集中していて年齢差がなかったが，65歳以上の人は徒歩，自転車の買物がゼロに，65歳以上の人の「自動車（家族や知人）」が13.7%も増加しており，有効な方法として，歩いて行ける移動販売などがない限り，不自由な生活から抜け出せない。

【課題3】買物満足度の要因は何か

中心市街地，環境の整っていない地区を対象としたが，地域差はあるが，地域内では買物満足度は新所沢地区以外では年齢による差はない。新所沢地区では，65歳未満の「満足している」が65歳以上の2倍の割合であり，年齢差が出た。また，人数の関係から吾野・東吾野地区とまとめたが，満足度は両地区は異なり，吾野地区は「満足していない」が最大項目であり，東吾野地区は「まあ満足している」が最大である。商業施設までの距離（吾野地区の方が遠い）が関係していると言える。

【課題4】居住継続意向の要因は何か

中心市街地，環境の整っていない地区では，ほぼすべての地区で年齢に関係なく「住み続けたい」が80%程度である。「住み続けたい」割合が低かったのは吾野地区で年齢に関係なく50%程度の値である。地区内で年齢差があるのは新所沢地区で，65歳以上の値が91.2%で非常に高く65歳未満と差が出た。

一方で，転居希望（「できれば市外に転居したい」＋「市外に転居したい」）

を見ると、どの地区でも65歳未満の人は10%~20%の大きさであり、一定数が転居希望であることがわかる。

飯能市吾野地区は、飯能市の最奥に位置しているが、65歳以上で「市内の別の場所に転居したい」が43.8%と多く、飯能市内でより買物環境の良い場所を求めていることがわかる。飯能市への愛着はあるようである。

以上を踏まえて、4市別に回答者の回答データを用いて要因分析をした結果、すべての市で、居住継続意向に買物満足度が有意にプラスに影響していることが分かった。年齢については、狭山市、所沢市、入間市では65歳以上であることがプラスに影響していた。飯能市では65歳以上という年齢は要因とはならなかった。

4-2 居住継続意向を決める要因について

本稿では、買物回数、交通手段と買物環境の満足度について、中心市街地と買物環境の整わない地区での状況を見てきた。アンケートでは本節では、居住継続意向を決める要因として、

- ・買物回数、
- ・年齢65歳未満か以上か、
- ・買物満足度

の3つの要因で居住継続意向を説明することを試みた。その結果、狭山市、所沢市、入間市の3市では、居住継続意向は買物満足度と年齢による影響が大きいことがわかった。飯能市では買物満足度のみ影響があることがわかった。

調査結果から、高齢者の買物手段は買物環境に関わりなく基本は徒歩であり、加えて自転車である。自動車の利用は誰かの車に同乗させてもらうことになる。高齢者の徒歩率と買物回数、買物満足度の関係をみると、徒歩率の低い地区ほど、買物回数が少なく、買物満足度が低い。飯能市吾野地区は徒歩率が低く、自分で運転する買物も少なく満足度が低い。入間市の宮寺・二本木地区も徒歩率が低く、車に同乗させてもらうことが多い。買物回数が少なく満足度も低い。高齢者は自力で人に頼らず、自分の都合で自由に買物に度々行ける環境に住み続けたいと願っている。特に吾野地区の高齢者は「市内の別の場所に転居したい」が43.8%を占めており、飯能市に対する愛着を示しつつ、買物の楽しみを求めている。買物環境への不満を転減するソフト面のサービスの支援があれば、地区内への居住継続意向は高くなると考えられる。

引用参考文献

- 1) 入間市「入間市の人口統計資料」 入間市>市政情報>統計>入間市の人口統計資料 2019. 1. 15参照<<http://www.city.iruma.saitama.jp/shisei/toukei/jinko/index.html>>
- 2) 鎌田晶子, 田中真理, 秋山美栄子 (2012)『高齢者の買い物行動・態度に関する検討(1)―若年者との比較』生活科学研究34巻pp. 15-26
- 3) 倉持裕彌, 谷本圭志 (2015)「高齢者の買物頻度と生活機能の関連分析―中山間地域を対象として―」土木学会論文集G (環境), Vol. 71, No6 (環境システム研究論文集第43巻), II_359-II_368
- 4) 厚生労働省 (2018)『平成29年国民生活基礎調査』
- 5) 狭山市「人口と世帯」 狭山市>市政>市役所・市の紹介>統計>人口と世帯 2019. 1. 15参照 <http://www.city.sayama.saitama.jp/shisei/shiyakusho/tokei/jinkou_setai/index.html>
- 6) 鈴木春菜・中井周作・藤井聡 (2010)「買い物行動における「楽しさ」に影響を及ぼす要因に関する研究」土木計画学研究・論文集, Vol. 27, No2, pp. 425-430
- 7) 鈴木雄・木村一裕・日野智・金子侑樹 (2014)「買物の価値の多様性からみた高齢者の買い物行動の実態と買物支援方策に関する研究」土木学会論文集D3 (土木計画学), Vol. 70, No5 (土木計画学研究・論文集第31巻), I_371-I_382
- 8) 駿河台大学, 飯能信用金庫, 飯能商工会議所, 飯能市役所 (2008)『平成19年度飯能市消費動向調査報告書』
- 9) 駿河台大学, 飯能信用金庫, 飯能市役所, 飯能商工会議所 (2013)『平成24年度飯能市消費動向調査報告書』
- 10) 駿河台大学, 飯能信用金庫, 狭山商工会議所, 狭山市役所 (2014)『平成25年度飯能市消費動向調査報告書』
- 11) 駿河台大学, 飯能信用金庫, 所沢市役所, 所沢商工会議所 (2016)『平成27年度飯能市消費動向調査報告書』
- 12) 駿河台大学, 飯能信用金庫, 入間市役所, 入間市商工会 (2017)『平成28年度飯能市消費動向調査報告書』
- 13) 谷本圭志, 倉持裕彌, 土屋哲 (2014)「活動能力に着目した高齢者の買い物手段に関する考察―中山間地域を対象として―」土木学会論文集D3 (環境), Vol. 70, No5 (土木計画学研究論文集第31巻), I_781-I_788
- 14) 所沢市「年次別人口統計」 所沢市>市政を身近に>データで見る所沢 (統計情

- 報) > 所沢市の人口 > 人口統計 > 年次別人口統計 2019. 1. 15参照 <<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/shiseijoho/data/jinkou/jinkoutoukei/nenjibetu.html>>
- 15) 南林さえ子 (2011) 「高齢者の消費行動—埼玉県西部地位位置を対象にして—」『駿河台経済論集』20-2号, pp. 127-151
- 16) 飯能市「町名 (大字) 別世帯人口」 飯能市 > 市政情報 > 行政機構・人口・統計・オープンデータ > 人口 > 町名 (大字) 別世帯人口 2019. 1. 15参照 <<https://www.city.hanno.lg.jp/article/detail/1172/>>
- 17) 房野麻紀子 (2002) 「高齢者の買物行動に関する研究～買物における満足度に注目して～」立命館大学大学院政策科学研究科修士論文要約 (2002年度) 2019. 1. 5参照, <http://www.ritsumei.ac.jp/gsps/education/thesis/masters.html/>
- 18) 水野映子 (2004) 「高齢者の外出の現状・意向と外出支援策」, MONTHLY REPORT, 「LifeDesign REPORT」2004. 9, pp. 4-15 2019. 01. 5参照, <<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/report/rp0409.pdf>>